



令和5年8月21日

海上保安庁

「海洋環境保全推進月間」における活動結果について

海上保安庁では、5月30日（火）（ごみゼロの日）から6月30日（金）までの期間を「海洋環境保全推進月間」として定め、「未来に残そう青い海」をスローガンに、全国で海洋環境保全に係る指導・啓発活動を重点的に実施しました。

また、同期間中、「海ごみゼロウィーク」※に係る取組として、地方自治体、小中学校、公益財団法人海上保安協会等と連携し、全国85か所の海岸等において、10,371人の方々と海浜清掃を行いました。

これに併せて実施した漂着ごみ分類調査、海洋環境保全教室等を通じて、海洋環境保全思想の普及・啓発を図りました。

※環境省及び公益財団法人日本財団の海洋ごみ対策に関する共同事業として、5月30日（ごみゼロの日）から6月5日（環境の日）を経て6月8日（世界海洋デー）前後の期間を「海ごみゼロウィーク」と定め、海洋ごみ削減に向けた全国一斉清掃活動を行い、その取組結果を世界へ発信していくもの。

＜海洋環境保全推進月間における活動結果＞

海洋環境保全教室：78回（参加人数 3,560人）

漂着ごみ分類調査：85回（参加人数 10,371人）

漂着ごみ回収量：約11,200袋（30リットルごみ袋換算）

海洋環境保全講習会：23回（参加人数 481人）

訪船指導：1,419隻

訪問指導：349か所

主な取組内容は、別紙をご確認ください。



海洋環境保全教室



漂着ごみ分類調査



海浜清掃



訪船指導

主な取組内容

○ 海洋環境保全教室

幼児から中学生を対象に、参加者の年齢構成に合わせて、環境紙芝居の上演、環境クイズ、簡易水質検査等を織り交ぜ、海洋環境保全思想の普及を図りました。

○ 漂着ごみ分類調査

幼児から中学生を対象として、海浜清掃により回収した漂着ごみの分類調査を通じ、身近な廃棄物や海洋プラスチックごみが海洋汚染に結びついている現状を体感してもらったほか、ごみの不法投棄防止の呼びかけ等を行いました。



環境紙芝居の上演

簡易水質検査

海浜清掃

○ 訪船指導、海洋環境保全講習会等

不適切な「タンク計測」、「バルブ操作」等による船舶からの油等の排出を防止するため、タンカー、漁船等を訪船し、燃料搭載時における適切なタンク計測、バルブの開閉確認、燃料漏油防止タンクの設置、海上へつながる排水口の閉鎖等の排出防止措置の確実な実施を指導したほか、講習会を通じて海事関係者、漁業関係者等に対する海洋汚染の防止に関する啓発を行いました。

○ 訪問指導

マリナー、釣具店、漁業協同組合等を訪問し、マリンレジャー愛好者、漁業関係者等に対する海洋環境保全啓発リーフレットの配布、不法投棄防止の呼びかけ等を行いました。

○ 各種周知・啓発活動

地域ケーブルテレビ、ラジオ番組への出演や、部署で実施した取組を積極的にSNSに投稿するとともに、屋内球技場、水族館、ショッピングモールの集客施設、空港、駅の公共施設等、多くの方々が訪れるイベント会場等において、海洋環境保全思想の普及・啓発を行いました。



バンテリンドームナゴヤの大型スクリーンを活用した啓発活動

教育機関での啓発ポスター掲示依頼

道央道輪厚PAのデジタルサインを活用した啓発活動